

オリジナル紙芝居「ペネとロペ」

藤川久美子・松岡和彦(日本野鳥の会ひょうご)

紙芝居「ペネとロペ」は、ヒドリガモという母と子のカモが主人公です。

春、ペネがシベリアに渡ってきて、水辺で巣づくりをするところから物語が始まります。すくすく育ち、よく飛べるようになったロペが、ある日、猟師の銃弾に傷を負います。母のペネは、早い冬の到来を告げる極寒の地で、ロペの姉や兄たちを先に南へ旅立たせ、ロペのためのエサ探しなどに死力を尽くします。ペネの献身的な介護により、傷が癒えて元気になったロペ。一方、食事も十分にとれず、衰弱したペネ。ロペは、飛ぶことも適わない母を残し、一人南へ旅立ち、心新たにするとところで、物語は終わります。



子どもたちが自然と触れ合う環境も機会も少なくなっている現代日本。社会全体が、生き物を無機質なモノとしか見ないようになってきつつあるような気がします。そのような自然への無感覚が、ひいては私たちヒトの生命活動をも脅かすものであるのにもかかわらず、です。

私たち日本野鳥の会ひょうご、親子バードウォッチングチームは、子どもたちもその影響を受け始めていることを危惧しています。今こそ、生きものを身近なものとして捉えることが強く求められているのではないのでしょうか。私たちは、親子を対象にバードウォッチングや室内ワークなどを通じて、子どもたちに自然の厳しさや不思議に感動してもらい、「観察する力」「考える力」「思いやる力」を身に付けてもらいたいと願っています。



この物語は、母の献身的な愛と、子へと受け継がれていく命をテーマにしました。身近にいる生きものが、血の通った生き活きとした生命体であり、私たちヒトと同じ地球に暮らす仲間であることを感じてもらいたいとの思いから、上演しました。

作者：松岡和彦
演者：藤川久美子